

# K.I.T.虎ノ門大学院 シラバス - 知的創造システム専攻

※ 欠席・遅刻する場合は、事前相談/連絡を徹底してください。(連絡先: 虎ノ門事務室[メール or 電話])

※ 授業中の食事は控えてください。また、携帯電話をマナーモードにするなど、受講するにあたってのマナーをお守りください。

科目名	区分/コード	単位数	VOD 閲覧	開講期
国際標準化実務特論	主要科目 X124	2	学内 のみ	4期 (後学期)
Advanced Practical International Standardization				
担当教員名	Eメールアドレス		連絡方法/オフィスアワー	
丸島儀一	-		メールアポイントにて随時	

## 関連している科目(履修推奨科目)

知的財産戦略特論【特に推奨】	国際標準化特論	国際交渉特論
技術標準化要論、技術標準化政策特論	情報通信標準化特論	グローバル特許系科目

## 授業の概要と到達目標

### 授業の主題と概要

知財経営における経営戦略(事業戦略)に連動した技術標準化活動をテーマとする。

1. 講義の形式は社会人対象の大学院講座であるので実学を中心に授業を進めます。
2. 受講生が直接技術標準化活動に携わっていきなくとも知財経営の技術標準化活動を理解できるように基本的な知識を学び、受講生の理解度に合わせた演習、討議を通して実践に役立つ知識と応用能力が修得できるように講義を進めます。
3. 標準化戦略、標準化活動の実戦経験がある教員(ゲスト含む)が担当します。
4. 技術標準化戦略と技術標準化活動戦略を授業に盛り込みます。

### 到達(修得)目標

知財経営における事業競争力強化の標準化戦略、標準化活動戦略を理解し実践に役立つ標準化活動ができる人材になることを目標とする。

### 受講対象者

ビジネス経験があり、知財経営に資する標準化戦略或いは技術標準化活動に意欲がある方で知財(特許)の基礎知識を有する方が望ましい。

## 履修上の注意事項やアドバイス

1. 授業中は知識の吸収のみでなく絶えず自己の所属する会社、団体等に於てはめて実践する立場で考えながら講義を受けることが望ましい。
2. 「中間レポートの提出」 毎回2コマの講義の内容についての「まとめ」、質問、感想、意見、要望等を記載した簡単なレポートを次回まで電子メールで丸島宛てに余裕をもって提出して頂く。質問は適時に回答する。
3. 演習、討議、レポート等に機密事項の開示は避けること。公言は差し控えるとしてもお互い機密保持の義務は負わないこととする。

※ 欠席が、**4コマ(90分=1コマ)**を超える場合は、単位修得にも影響する。欠席の際は、事前連絡を徹底すること。

※ 本科目は、基本2コマ連続クラス(180分×8日間、合計16コマ)で構成する(16コマ目は予備として設定)。

※ 授業にて配布する資料等教材や講義収録映像・音声の無断転用・転載を禁じます。

## コンピテンシ修得目標

知識領域(Y軸)		ヒューマンパワー(Z軸)		思考プロセス(X軸)	
Y1: 基盤法令・テクノロジー		Z1: 問題発見力	○	X1: 企画	○
Y2: 応用法令・実務・テクノロジー	○	Z2: 独創力		X2: 構想	○
Y3: グローバル法令・実務	○	Z3: 問題解決力	○	X3: 調査・分析	
Y4: マネジメント	○	Z4: プレゼンテーション力	○	X4: 設計・開発	
Y5: 戦略立案	○	Z5: 変革推進力	○	X5: 変革	○
Y6: 標準化	○	Z6: コミュニケーション力	○	X6: 導入・運用	○
-	-	Z7: リーダーシップ力	○	X7: 評価・検証	○
-	-	Z8: ネゴシエーション力	○	X8: リーガルマインド	○

## プラクティカム

イベント/ケース	教育技法	マテリアル/ツール
1   中間レポートの提出		

## 評価の方法

(総合評価項目と割合)		評価の要点
中間レポート	30%	毎回、事務室より出席簿を準備する。
演習、討議の貢献度	20%	
課題レポート	50%	
合計	100%	

テキスト、参考図書 など		備考
※ 追加する場合を含め、一部変更となる場合もございますので予めご了承ください ※		
テキスト (購入が必要)	教員のオリジナル資料を使用。(原則) 「パテントプール概説」 加藤 恒 発明協会	「パテントプール概説」は、加藤氏のゲスト回までに読んでおくことを推奨する。
参考図書 (購入は任意・講師推奨)	★「知的財産戦略～技術で事業を強くするために～」 丸島儀一 ダイヤモンド社 →【初回までに少なくとも第1章、第2章、第6章を読んでおくことを推奨する】 ★「キヤノン特許部隊」 丸島儀一 光文社 【初回までに読んでおくことを推奨する】 ★「知財この人にきく」 丸島儀一 発明協会 【初回までに読んでおくことを推奨する】 ★「国際標準化戦略」 原田節雄 東京電機大学出版局 【ゲスト回までに読んでおくことを推奨する】 ■「標準化入門」 梅田政夫 日本規格協会 ■「国際標準化入門」 奈良好啓 日本規格協会 ■「標準化戦争への理論武装」 山田 肇 税務経理協会 ■「国際競争とグローバル・スタンダード」 経済産業省 標準化経済性研究会編 日本規格協会 ■「コンセンサス標準戦略」 新宅純次郎、江藤学(編著) 日本経済新聞社 ■「ネットワーク経済の法則」 本喜一訳 IDG コミュニケーションズ ■「技術標準対知的所有権」 名和小太郎 中央公論社 ■「デファクト・スタンダードの競争戦略」 山田英夫 白桃書房	
参 考 URL		
適宜紹介予定		

★ゲスト講師は、担当回を変更する場合があります★

コマ	学 習 内 容	事前準備	担当者	時間
1,2	知財経営を意図する企業の知財戦略全般について講義する。	「知的財産戦略」、 「キヤノン特許部隊」 「知財この人にきく」 を読んでおく	丸島	180分
	イベント   事業、研究開発、知財の三位一体で事業の全サイクルに亘る知財戦略の概要を学習する。			
3,4	知財経営に於ける技術標準化戦略の意義と事業戦略に連動した知財活動、標準化活動の概要について講義する。	事前に提示する資料を読んでおく	丸島	180分
	イベント   事業競争力強化の知財活動、技術標準化活動を学習する。			
5,6	演習・討議を中心に知財戦略を講義する。	事前に提示する演習問題を検討しておく	丸島	180分
	イベント   演習・討議により事業、研究開発、知財の連携による知財活動を学習する。			
7,8	国際標準化戦略、事業戦略、知財戦略の連動事例について講義する。 ・クアルコム社は IMT2000 において、いかに国際標準化を行い、特許を活用することで、事業戦略を実行したのか？ ・アップル社はいかに iPhone を事業化したのか？(他社が主導した標準技術、多数の必須特許が存在する市場にいかに入社したか？) その他、グーグル社等の事例について解説を行い、特に、企業における標準化戦略が、その事業戦略に応じていかに構築され、標準化が行われているか、関連した事前課題を検討/議論することで、受講者自身が国際標準化、事業、知的財産の連動について自分の考えを持つことができるようにする。	事前に提出する課題を検討しておく	ゲスト 羽矢崎 聡	180分
	イベント   国際標準化戦略、事業戦略、知財戦略の連動について学習する。			
9,10	国際技術標準化戦略の実戦について講義する。 企業の事業戦略と国際標準化の関係について解説し、続いて国際標準化と知的財産権の両輪事業戦略の4種類と、それぞれの使い方を解説する。基本的な知識として国際標準化組織全般を紹介するが、東京電力が推進した UHV(1100 kV)国際標準化活動をビデオ放映して、そこから応用的な知識を学習する。また、Blu-ray disc や Suica の国際標準化事例から紐解き、標準と知財を活用する事業戦略の原理原則を学習する。	「世界市場を制覇する国際標準化戦略」を読んでおくことが望ましい。	ゲスト 原田節雄	180分
	イベント   デジタル時代の特許問題の処理方法とパテントプールの運営の実際について学習する。			
11,12	技術標準化におけるパテントプールの意義、仕組み、現状の活用状況と次世代に向けた課題等について実戦に基づき講義する。	「パテントプール概説」を読んでおくことが望ましい	ゲスト 加藤恒	180分
	イベント   国際技術標準化活動の実践を学習する。			
13,14	デジタル時代の特許問題の処理方法、パテントプールの運営の実戦について講義する	事前に提出する資料を検討しておく	ゲスト 中村嘉秀	180分
	イベント   国際標準化活動の実践を学習する。			
15,16	演習・討議を中心に技術標準化戦略を講義する。	事前に提示する演習問題を検討しておく	丸島	90分
	イベント   事業、研究開発、知財の連携による技術標準化活動を学習する。※後半 90 分は予備のコマ (進捗により活用)			

学習内容やスケジュール等、状況に応じて、一部変更・改善が生じる場合もあります。  
講義収録は、特別講師を招く場合を含め、事情によっては収録できない場合もあります。  
予めご了承ください。

専任教授 確認記録欄
確認者氏名： 加藤 浩一郎